

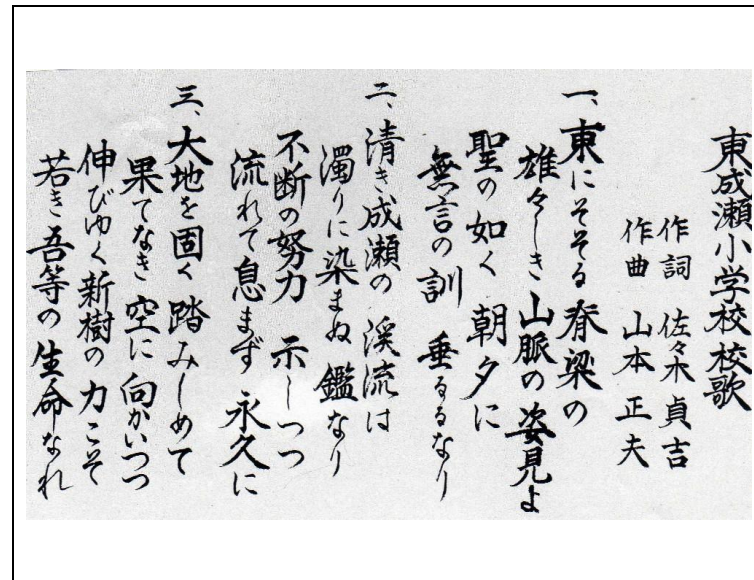
東成瀬村民の皆さんへ：私たちは「成瀬ダムは

■ 緑と清流こそが未来に引き継ぐべき本当の財産ではないでしょうか

成瀬川、きれいな流れはいつまでも

「私は、10年間ほど仕事で村を離れていたが、戻って今は購入した山林の手入れをしたりして暮らしている。村を離れていたとき、いつも思い出し口ずさんだのは、東成瀬小学校の校歌だった。たいした望みもないが、成瀬川はいつまでも清流であってほしい。死んだときはお経の次にこの校歌を聞いてあの世に行きたいなあ（笑）」

(一村民)



■ 赤滝とその周辺の自然は、東成瀬村の、そして秋田県の宝です。

秋田県民の癒しの場所として、なんとしても残したいものです。

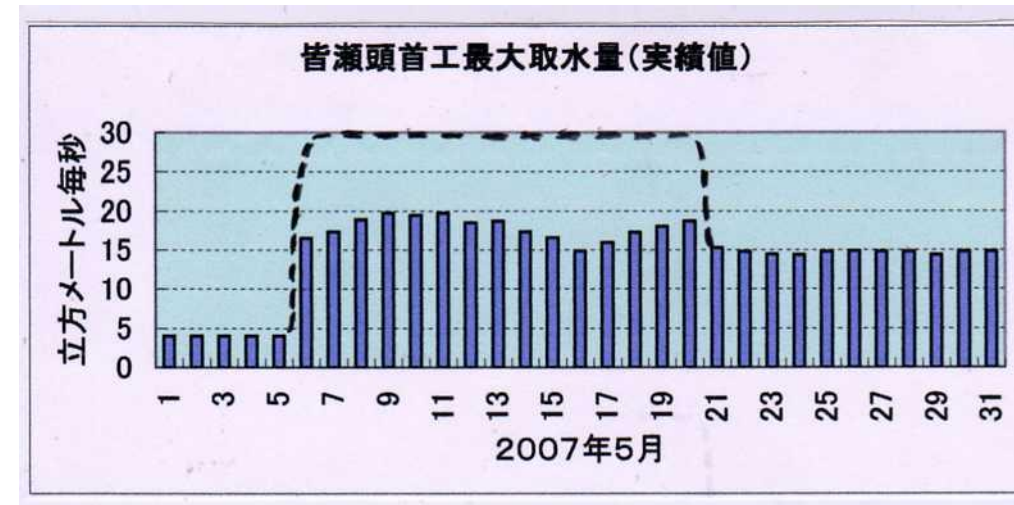


2003年、赤滝は、雄物川流域の方々から寄せられた、心に残るとっておきの風景のひとつとして「雄物川三十景」に選ばれました。それには理由があります。滝は、水量や落差が大きいことが評価されますが、赤滝はそればかりではありません。能恵姫や竜神の伝説に加え、村人が守ってきた赤滝神社が滝のすぐ脇にあります。普通、滝は見上げるばかりですが、赤滝は下流も側面も、そして上流の岩盤、川原も全て楽しむことができます。このような滝は日本広しといえども、なかなか他にありません。だから老若男女が楽しめるし、癒される所なのです。いつだったか、上の流れで外国人のグループが水浴びしていました。このような赤滝は、東成瀬村ばかりでなく、秋田県の宝だと思います。絶対ダムに沈めてはいけません。

(湯沢の一農婦)

必要ない」と考えています。

■ 成瀬ダムは「今の2倍の農業用水を取れるように」計画されました。



4年ぐらい前までは毎秒15 m³でした。成瀬ダムに先行して少し水を多く取るようにしましたが、そんなに増えているわけではありません。点線のように毎秒30 m³の水が取れるように成瀬ダムを建設する必要があるのだそうです。

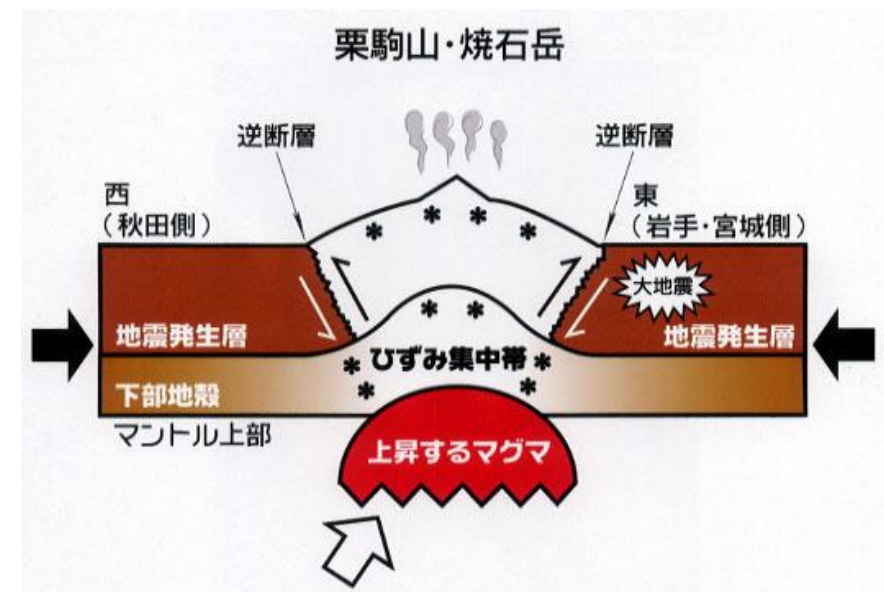
上図は、現在の取水量のグラフです。これでそんなに不自由しているとは思えません。5月6日から20日頃までの2週間（代かきや田植えの時期）に、今の2倍の水が取れるように成瀬ダムを造ろうというのです。田んぼの3分の1以上減反しているというのに。

でも、考えてみてください。子どもや孫たちが、正月や盆に帰ってくるとき道路が渋滞するからと、もう1本高速道路を造れと言うのでしょうか？ 一年のうち「水が足りない」という2週間のために1530億円（秋田県の負担は260億円）のダムを造りますか？

■ ダム周辺は栗駒山の火山灰が積もったもろい地質です。

昭和45年の地震を思い出してください。岩手・宮城内陸地震のような地震が、栗駒山の北西側で起きたらどうなるのでしょうか？

東北大学などの研究者たちは、昨年起きた岩手・宮城内陸地震のメカニズムを発表しています(右図)。基本的には、奥羽山脈の西側でも同じような地震が起こりうるということだと思います。ご存知のようにこの地域は地滑りなどが起きやすい地質です。そういう所に大きなダムは造るべきではありません。



成瀬ダムをストップさせる会 事務局連絡先 熊沢文男 (42-2311)

